

『NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会』は、7月11日より『一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク』として活動してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO

“mano a mano” とはスペイン語で “手から手へ” という意味です



『動脈硬化』について学べるサイトをご紹介します

【本法人評議員】
東京都立多摩総合医療センター
深野 光司 [薬剤師]

糖尿病になると体中に様々な影響が出てきますが、この大きな原因として糖尿病による動脈硬化が挙げられています。糖尿病でなくても動脈硬化を起こすことはありますが、糖尿病を発症している人は普通の人に比べ6倍程度発症率が高まると言う統計もあり、様々な合併症の原因となっている動脈硬化自体が糖尿病の合併症と考えてもよいでしょう。

そこで、動脈硬化について医療従事者、患者が学べる動脈硬化予防啓発センターのサイトをご紹介します。(動脈硬化予防啓発センター様ご了承済みです。)

★急性心筋梗塞リスクスコアシート

コレステロール値や血圧など数種類のデータを入れて回答するだけで5年以内の心筋梗塞発症確率が即座に示されます。1分でできますので試す価値あります。

★イラストでよくわかる動脈硬化のしくみと予防

動脈硬化の進行をアニメーションで見られます。それ以外にもメタボリックシンドローム、糖尿病、EBMなどがイラストで解説されています。

★日本循環器病予防セミナーeラーニング

日本循環器病予防学会企画のセミナー(平成27年夏開催、テーマ:「循環器病予防のための基本を踏まえた研究計画力を獲得する」)をeラーニングシステムで医療関係者向けに無償配信されています。

★血管健康くらぶ

患者さんにもわかりやすく解説されています。糖尿病教室がマンネリ化してきたときにも使えそうです。

★(血管健康くらぶ内)3分でわかる「動脈硬化とは?」

5分以上かかりそうですが、わかりやすい言葉で動脈硬化の原因、危険性、予防、改善について学ぶことができます。まずは、できるところから改善しましょう。詳しくは「タイプ別血管しなやか生活」をご覧ください。

★(血管健康くらぶ内)習慣タイプ別 8つの血管しなやか生活

私、いちおしのコンテンツです。「きもちに合わせて無理をせず」できる生活改善法です。8つの習慣タイプとは…? 右枠内に当てはまるものがあればぜひチェックしてみてください。

★(血管健康くらぶ内)血管健康クイズ

「血管豆知識編」「生活習慣編」「コレステロール編」「動脈硬化の基礎知識編」という4つのカテゴリから、血管に関するクイズが出題されます。



動脈硬化予防啓発センター
公式サイトより

1. 無理して運動するのなんてイヤだ!
2. 忙しくて運動する時間がない!
3. このままじゃマズイ! 運動がんばるぞ
4. 何度も禁煙チャレンジ。やめられない
5. スイーツのない生活なんて…!
6. ビールも日本酒もお酒が大好き!
7. なかなか栄養バランスが取れなくて…
8. 良い生活習慣を続けるコツは?

以上、興味がありましたら、運営元の動脈硬化予防啓発センターの公式サイト(下記URL)にアクセスしてみてください。
一般社団法人 動脈硬化予防啓発センター 公式サイト ⇒ <http://www.doumyaku-c.jp/>

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。)

問題 低血糖時の対応について正しいのはどれか、2つ選べ。

(答えは6ページにあります。)

1. 10~20gのブドウ糖が無い時はそれに相当する糖質を含むジュースを摂る。
2. SGLT2阻害薬を服用中の患者にはショ糖ではなくブドウ糖が必要である。
3. SU薬やアルコールでの低血糖は、遷延・再発しない。
4. 意識障害がある場合は、無理に固形物の食べ物を口に入れない。
5. 緊急時はグルカゴンの内服する。





公益社団法人に向けて、新たな一步を踏み出します。

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 代表理事
貴田岡 正史 [医師]

この度は、NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会平成28年定期総会において、一般社団法人の設立ならびに事業移管に対し、ご承認いただきまして、誠にありがとうございました。

当日はご都合がつかず、ご参加いただけなかった会員の皆さまに、改めて本件に関するご説明を差し上げたく、誌面を割いていただきました。

遡ること14年前、平成14年9月に任意団体からNPO法人として新たな船出をいたしました。当時も時代の要請をいち早く察知し、法人としての進化を模索した結果、NPO法人に移行し活動を継続してきた経緯がありますが、NPO法の制定から15年余が過ぎ、新たな公益法人法が整備された中で、法人の方向性を再検討するときが来ていると考えました。そこで、NPO法人理事会は、新たな法人形態として「公益社団法人」を目指すに至りました。

しかし、適用される法律の違いからNPO法人から一足飛びに公益社団法人には移行できないため、まず初めに一般社団法人を設立し、これまでNPO法人が実施してきた事業を移管するという手順を踏むことにいたしました。

8月より名称を「臨床糖尿病支援ネットワーク」といたしますが、西東京臨床糖尿病研究会の積み重ねてきた実績と目指すところはそのままに、今後も臨床の現場を基軸として国民の皆さまに必要とされる活動を続けてゆく所存でございますので、今後とも一層のご尽力・ご協力をお願いする次第でございます。

報告

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 平成28年度定期総会

日時：平成28年6月11日(土)
場所：ルミエール府中

『NPO法人西東京臨床糖尿病研究会 平成28年度定期総会』は、総会員数1228名のうち表決委任者を含む474名の出席を賜り、定款第30条に定める定足数三分の一を満たし、正式に開会いたしました。

定款第29条に則り、満場一致をもって貴田岡正史理事長が議長に選任され、昨年度の事業報告及び収支報告がなされました。

審議事項として、まず、「一般社団法人の設立」について説明がありました。当法人は新たな展開を模索した結果、「公益社団法人を目指す」とし、7月に一般社団法人を設立しNPO法人の全ての事業を移管し、現在の会員の皆様は、一般社団法人の「準会員」へ移行していただく旨、説明がありました。更に、一般社団法人への移行に伴い理事及び監事の改選が理事会で決定した旨も報告されました。続いて、昨年度の収支計算書、今年度の事業計画・予算についても説明のうえ、審議を行い、いずれも満場一致で原案の通り承認されました。

審議終了後、「特別功労賞」「功労賞」「療養指導学術奨励賞」の授与式が行われました。

「特別功労賞」は本法人理事長のイムス三芳総合病院 貴田岡正史先生に授与されました。貴田岡先生は本研究会の草創期よりこの地において糖尿病治療の現状把握や医療連携を実践され、更には本研究会のNPO法人化を行い組織的活動を可能にし大きく発展する基盤を築かれました。また、西東京療養指導士認定機構や地域支援事業の構築と展開の全責任者としてそれを実現されました。

続いて「功労賞」は、当会副理事長の医療法人社団桜一会 かの内科 菅野一男先生に授与されました。菅野先生は、草創期より本研究会の運営に深く携わり、研究会発展の基礎を築かれました。また、早くより地域における医療連携に腐心され西東京地域における糖尿病治療の中核となって地域における糖尿病治療のレベルアップを図られました。

最後に、療養指導に特筆すべき業績を残した方に贈られる「療養指導学術奨励賞」は、管理栄養士の飯塚理恵先生(医療法人社団糖和会 近藤医院等)、看護師の豊島麻美先生(武蔵野赤十字病院)、薬剤師の小林庸子先生(杏林大学医学部付属病院)、臨床検査技師の櫻井勉先生(公立昭和病院)にそれぞれ授与されました。



授与式の模様 (左から飯塚先生、
豊島先生、櫻井先生)

報告

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 第59回例会

日時:平成28年6月11日(土)

場所:ルミエール府中

[本法人評議員] 第59回例会当番幹事 吉祥寺藤田クリニック 藤田 進彦 [医師]

メインタイトルは「糖尿病治療 in the future」、興味ある4演題を用意させていただいたこともあり、214名と多くの方に参加していただきました。

第1部では、東京都立多摩総合医療センター 佐藤文紀先生がGLP-1受容体作動薬の効果、使用経験について、東大和病院 犬飼浩一先生がSGLT2阻害薬の効果的な処方方法を、それぞれの先生が、独自の切り口で話され、臨床に役立つ内容でした。

第2部では、未来の糖尿病治療において一翼を担うであろう2つの話題が用意されました。1演題目は、iPS細胞についてです。日本における第一人者である京都大学iPS細胞研究所 川口義弥先生にお話をいただきました。膵臓細胞移植にiPS細胞を応用するにおいて、機能性に優れ、持続性のある膵臓を作製するためには、「膵臓の発生を再現し、膵臓を丸ごとつくる」という壮大な取り組みを話されました。そこには発生学の神秘もありました。2演題目は、腸内細菌についてです。慶應義塾大学医学部 入江潤一郎先生にお話をいただきました。腸内細菌の遺伝子および腸管内代謝産物の網羅解析が可能となり、腸内細菌の研究が飛躍的に進み、糖尿病患者さんの腸内細菌叢に特異的な偏りがあることがわかってきたこと、糖尿病治療薬において、腸内細菌の環境に変化が起きていることなど最先端の話題を講演されました。腸内細菌は母親の産道内細菌が口に入ることから始まり、日常的食事の摂取によって腸内に繁殖していくものであり個人個人によって細菌叢の様子は異なります。腸内の細菌叢は誕生の瞬間から人間の体質や疾患に大きく関わっていて、糖尿病や肥満などは悪玉細菌が多い細菌叢を持つことが原因の一つです。腸内細菌を良好に保つためには、食物繊維などのプレバイオティクスや乳酸菌やガセリ菌などのプロバイオティクスを積極的に摂ることが有用であるとの興味深い講演でした。参加された方々において、有意義な時間となったようです。



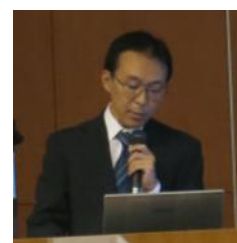
佐藤先生



犬飼先生



川口先生



入江先生



《主な講演内容》

今後の糖尿病診療におけるGLP-1受容体作動薬の位置付け

演者: 東京都立多摩総合医療センター 内分泌代謝内科 佐藤文紀先生

SGLT2阻害薬の効果的利用のコツ

演者: 東大和病院 糖尿病・内分泌科 センター長 犬飼浩一先生

iPS細胞研究が拓く糖尿病治療の未来

演者: 京都大学iPS細胞研究所 教授 川口義弥先生

腸内細菌研究が拓く糖尿病治療の未来

演者: 慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科 入江潤一郎先生



- 😊 食事の内容によって腸内細菌が変わっていくことがどういうことなのかよく分かった。バランスの良い食事をとることは腸内細菌の偏りをなくしていくのでとても大事だと思った。
- 😊 糖尿病の患者さんに明るい未来があると思えた。希望を持って療養指導にかかわっていきたいと思う。
- 😊 病院勤務ではないのでこういった先端の情報は大変役立つ。

😊 iPS細胞の話聞いて良かった。難しいので(全ての)説明はできないが、患者さんに研究段階のところは伝えられるのでよい情報提供になると思う。

報告

第143回 実践栄養指導勉強会

日時:平成28年5月9日(月)

場所:緑風荘病院併設グリーン・ボイス

[本法人会員] 実践栄養指導勉強会世話人 緑風荘病院 鈴木 順子 [管理栄養士]

平成28年5月9日(月)、緑風荘病院併設グリーンボイスで『第143回実践栄養指導勉強会』が行われました。

1演題目は当院の管理栄養士 後藤より症例報告として、『持続性選択的DPP-4阻害薬(マリゼブ)により、著効した2型糖尿病患者の1例』と題して、特定保健指導で担当となった患者に使用した新しい薬剤の効果や患者の特定保健指導前後の食生活の変化などについて、頸動脈エコーなどの検査結果を交え報告していただきました。

2演題目は当院管理栄養士・栄養室 運営顧問でもある、駒沢女子大学 人間健康学部 健康栄養学科 教授、並びに東京都栄養士会 会長の西村より、『28年度診療報酬改定により、管理栄養士は何をすべきか?』と題して講演していただきました。今回の改定点や診療報酬改定に関するこれまでの活動、平成30年に起こる診療報酬・介護報酬同時改定に関する要望などを詳しく説明していただきました。今後は地域・在宅での管理が重要となり、管理栄養士も在宅のスタッフと連携することが必要であるとのことでした。

最後に本日の演題でもある「管理栄養士のやるべきこと」としてアウトカム評価の必要性や生涯教育制度と専門管理栄養士制度についての話でまとめられました。

ディスカッションでは、参加者の普段現場で抱えている問題や疑問点に応答し、それぞれ納得していただき勉強会は終了しました。

報告

西東京CSII普及啓発プロジェクト 第8回研修会

日時:平成28年5月10日(火)

場所:国分寺労政会館

[本法人評議員] 西東京CSII普及啓発プロジェクト第8回研修会総司会 (株)大和調剤センター 森 貴幸 [薬剤師]

2016年5月10日(火)国分寺労政会館にて行われた『西東京CSII普及啓発プロジェクト 第8回研修会』の報告をいたします。

第8回研修会はリアルタイムのパーソナルCGM+ポンプ療法(Sensor Augmented Pump)(SAP)など新しい治療法の時代を迎えている今日で、この西東京地域でも患者さんの療養の質の向上に少しでも役立つ形で、ポンプ療法(CSII)に取り組む施設が増えることを目標にしてきました。

今回は前半をメドトロニック社の柿沼様にSAP療法について講習をしていただきました。お話を聞きながら実際に手で触れ、機械の特性などを把握することで患者指導に生かせそうだと感じました。

後半は都立小児総合医療センターの樋口先生から、小児科の糖尿病患者のCSII導入のコツと使用実態、使用方法について症例を交えながらお話をいただきました。その中でセンセーショナルだったことは小児治療ではインスリンを希釈して使用しているといったことでした。ポンプを使う際も10倍に希釈したインスリン溶液をセットする必要があると知りました。大人での使用量が子供の世界では多すぎることを知りました。大人ではペンの質などを議論していますが小児では別のことが大切であることを知ることができてとても有意義な研修会だったと思います。

インスリンメーカーがよりユーザーフレンドリーになることを望むのであれば、これからは小児用に最初から希釈されたインスリンが発売されることを期待します。



樋口先生



報告

医療支援事業 運営委員会主催外来・訪問栄養指導講演会
「平成28年度診療報酬改定を生かす外来・訪問栄養指導のあり方」日時:平成28年5月11日(水)
場所:国分寺労政会館

[本法人理事] 医療支援事業運営委員 駒沢女子大学／緑風荘病院 西村 一弘 [管理栄養士]

平成28年度診療報酬改定が4月に行われ、栄養指導関連の著しい改定があったので、本法人会員のために、その詳細や改定に至った経緯等を交えて解説しました。

- ① 外来・入院栄養食事指導料15分以上130点→初回概ね30分以上260点、2回目以降概ね20分以上200点に改定された。これは公益社団法人日本栄養士会が診療報酬改定の要望書に上げた数字と全く同様であり、要望に対する満額の回答でした。
- ② がん患者、摂食嚥下機能が低下した患者、低栄養状態にある患者に対する栄養食事指導が、算定対象になりました。残念ながら通知の別表3に入っていないため、入院時食事療養の特別食加算の対象にはなっていないので、ご注意ください。
- ③ 医師の栄養量に対する指示項目も医師が必要と認める項目になったため、これまでは必須項目であった熱量や熱量構成・たんぱく質・脂質・炭水化物等々も全ての記載が必要ではなくなり、緩和されました。
- ④ 在宅患者訪問栄養食事指導では、これまでは「調理を介した実技を伴う指導」が必要でしたが、「食事療法に必要な具体的な指示」に変わり、条件が緩和されました。

その他にも複数の改定がございましたが、これら全ての改定は2025年問題(超高齢化社会:成人の1/3が65歳以上になる年)を見据えた「地域包括ケアシステム推進のための取り組みの強化」を目的に行われた改定であることを、皆様にご理解いただきたいと思います。



報告

第44回 糖尿病食を作って食べて学ぶ会

日時:平成28年4月26日(火) / 5月27日(金)

場所:立川市女性総合センターアイム / ルミエール府中

[本法人会員] 登録管理栄養士 (株)グリーンハウスヘルスケア 深浦 徳子 [管理栄養士]

『第44回糖尿病食を作って食べて学ぶ会』を4月26日立川、5月27日府中で開催し、計35名の参加がありました。今回は、「果物の1回の適量はどのくらいでしょうか」というテーマに対し、果物1回分(約40kcal)の重量・エネルギー、食物繊維量に、日本食品成分表2015年度版(七訂)に基づいた糖質量を加えて説明をいたしました。また、果物の効用と食べ方のコツもご説明させていただきました。参加者のほとんどが、果物が大好きとのことで、参考にしていただける資料をお渡しすることができたと思います。

調理実習は、リクエストをいただいた油を抑えたえびチリの他、デザートには季節のいちごを添えたヨーグルトゼリーなどを実習いたしました。参加者からは、「油を抑えてもこんなに美味しくえびチリが出来て驚いた。」「えびチリが家でも作れる料理だとは思っていなかった。」などの声が聞かれました。

次回第45回調理実習は、7月22日立川、8月23日府中にて

開催いたします。内容は、「冷やしそうめん・変わりだれ」です。第46回調理実習は10月、11月に実施します。日程と内容は事務局にお問い合わせください。皆様のご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。



今回のメニュー

- ・発芽玄米入りご飯
- ・ヘルシーえびチリ
- ・ほうれん草のナムル
- ・中華風スープ
- ・ヨーグルトゼリー
いちごソース添え





第59回日本糖尿病学会年次学術集会

平成28年5月19日(木)～21日(土)

国立京都国際会館 等

【本法人会員】

東京都立多摩総合医療センター

川崎 元樹 [医師]

レポート1

『第59回日本糖尿病学会年次学術集会』が春の京都で開催されました。私は初日のみ参加しましたが、1型糖尿病のシンポジウムの中で、2015年秋に測定方法が変更になった抗GAD抗体に関するセッションがありましたので報告させていただきます。

抗GAD抗体の従来の測定方法はRIA法、現在の測定方法はEIA法であり、単位はU/mlで同じですが、EIA法はRIA法より約19.2倍、値が高くなります。RIA法の正常下限は1.5、EIA法の正常下限は5U/mlのため、理論的にはRIA法で測定感度未満の超低抗体価症例をEIA法では拾い上げることができると考えられます。実際、1型糖尿病患者を対象に抗GAD抗体のRIA法とEIA法を同時測定したTIDE-J研究によると、RIA法は陰性でEIA法は陽性である例が20%程度あったようです。「インスリン分泌不全があり、RIA法陰性であった人は、もう一回EIA法で測り直すことを検討してもよいのではないか」との意見がありました。

一方で、抗GAD抗体の測定結果により臨床判断が変わる場合がある緩徐進行1型糖尿病の症例に限定すると、EIA法はRIA法に比べて予想に反して陽性率が低く、RIA法陽性でEIA法陰性である例が25%程度あり、特にRIA法で20U/ml以下の低抗体価例に限定すると約40%がEIA法陰性であったようです。「RIA法が陽性であった症例は、EIA法が陰性でも診断を変更するべきではなく、RIA法の豊富なエビデンスに基づいて診療を行うべき」との注意喚起がありました。

平成28年5月21日(土)、みやこめっせで行われた最後のシンポジウム31「糖尿病足病変とフットケア」を拝聴しました。その一部をご報告致します。

座長の渥美義仁先生・河野茂夫先生のもと「足を守るフットケアに関わる医療者とのつどい」をテーマに、7名の演者が熱い議論を交わしました。河野茂夫先生から「糖尿病足病変国際ガイドライン(ガイダンス)2015について」と題し、糖尿病足病変国際ワーキンググループ(IWGDF)に日本代表として参加されているお立場から、改定されたガイドラインの説明がありました。ガイドラインはIWGDFのHPから無料ダウンロードが出来ます。ご興味のある方は検索してください。

次に神戸大学の寺師浩人先生からは「(神戸分類)～歩行を守る」と題し、日本人はインスリン分泌が弱い為欧米人に比べ早く糖尿病になり(＝罹患期間が長い)、透析患者数も多い(＝320万人)が予後はいいとし、その一方、医療環境的には欧米に比し血管外科医が少なく、足病学部もないという特徴を示しながら、足病変に対する集学的治療の確立が必要と語られました。また、足病変を4タイプに分類し治療方針を樹立する神戸分類の説明は、フットケアを担う看護師も糖尿病患者の足をアセスメントする際に有意義です。看護の立場からは日本看護協会の溝上祐子先生が2025年問題に触れ、医療・介護が強調し、高齢で慢性創傷を持つ在宅患者への看護教育が急務とし、創傷と血糖コントロール技術に特化した特定看護師教育の経過が報告されました。

どの先生方のお話も大変スケールが大きく大変刺激になりました。まだ始まったばかりですが、本法人の間接事業である「フットケアセミナーIN多摩」の企画・運営に活かしていきたいと思ひます。セミナー開催の情報はもう少しお待ちください。



【本法人理事】

武蔵野赤十字病院

豊島 麻美 [看護師]

レポート2

読んで
単位を
獲得しよう

答え **1, 4**

下記の解説をよく読みましょう。(問題は1ページにあります。)

解説

低血糖時、ブドウ糖・糖質(α-GI薬の場合はブドウ糖)を摂取し症状がおさまっても再び血糖が低下する可能性があるため、食事前であれば食事を、次の食事時間まで1時間以上あれば炭水化物を1～2単位摂取させる。SU薬やアルコールが関与した低血糖は遷延・再発することが多いので注意。重篤な低血糖で意識障害があり、ものが吞み込めない状態では誤嚥や窒息の原因となるので、飲食物を無理に口の中へ入れない。経口で糖質を摂取させるか、グルカゴン筋肉内注射をするか決定する。緊急処置として、家族がグルカゴンを筋肉内注射してもよい。グルカゴンの作用は一時的で、血糖が再び低下する可能性があるため、症状が改善したら糖質を補う。低血糖の原因・誘因、早期症状、対応の適否など再発防止策を患者と一緒に考える。

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 直接事業
 ☒ 間接事業
 ☐ その他

◆第17回 西東京糖尿病療養指導士養成講座

申込必要

本法人では、糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を有し、熟練した療養指導を行うことを推進することを目的とし、13回にわたる養成講座を開講、その受講者に年1回認定試験を実施し「西東京糖尿病療養指導士」を認定しています。本講座は西東京糖尿病療養指導士を目指す方に必要な知識を習得し療養指導に役立ててもらうための講座です。今年も志のある新たな受講者を迎え開講します。

期 間：平成28年9月5日（月）第1講開講 以降12月13日（火）まで計13回実施

時 間：19:00～21:00（開場18:30）

場 所：立川市女性総合センターアイム 1階ホール（JR「立川駅」北口徒歩7分）

内 容：「糖尿病療養指導ガイドブック 2016」に沿って講義を行う

受講料：14,000円（全13回講義分として）



日 程： 9月 ⇒ 5日（月） 14日（水） 28日（水）

10月 ⇒ 7日（金） 13日（木） 19日（水） 25日（火） 31日（月）

11月 ⇒ 8日（火） 16日（水） 30日（水）

12月 ⇒ 7日（水） 13日（火）

予備日：12月19日（月）

※休講等、不測の事態に備えた補講日

定 員：190名（定員に達し次第締め切ります。）

受講資格：糖尿病療養指導に1年以上携わった経験のある方（自己申告で可）で且つ、

本法人の会員となる方（西東京臨床糖尿病研究会会員の方）※詳細は下記

テキスト：日本糖尿病療養指導士認定機構 編「糖尿病療養指導ガイドブック 2016」

（日本糖尿病療養指導士認定機構発行 ㈱メディカルレビュー社発売 税込3,024円）

※テキストは、当日までに各自ご用意ください。

書店にご注文いただくか、インターネット（アマゾン、楽天ブックス等）で購入できます。

申 込： 本法人ホームページ [https://www.nishitokyo-dm.net/] の会員マイページより

※申込方法の詳細は、8月2日（火）10:00より以下の頁でご案内します。

トップページ > 「重要なお知らせ」 > 「第17回西東京糖尿病療養指導士養成講座のご案内」
又は「新着情報」

※本法人の会員（西東京臨床糖尿病研究会会員）ではないお知り合いの方に

本講座をお勧めする場合は、まず本法人に入会していただくようお願いください。

8月2日（火）より会員マイページに本講座のご案内と申し込みボタンが表示されます。

入会方法は、本法人ホームページの以下の頁にある入会フォームよりお申込みください。

トップページ > 「入会のご案内」 > ページ下部「入会フォームはこちら」 > 入会フォーム

※スマートフォンの場合は、「メニュー」の中にあります。

西東京糖尿病療養指導士・認定試験実施日：平成29年2月19日（日）

※試験の詳細については、講座期間中にご案内します。

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

【受講資格】当該講座の受講には、以下の4点を満たすことを必要とする。

1. 医療職であること。※但し、非医療職であっても、認定審査委員会の審査をもって受講を認めることがある。
2. 1年以上糖尿病患者の療養指導に携わった経験があること。※非常勤でも可、自己申告で可
3. 受講申込と共に、一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワークの会員となること。
4. 所定の期日までに申し込みをし、受講料を納めること。

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 直接事業
 ☒ 間接事業
 ☐ その他

☒ 臨床糖尿病支援ネットワーク 糖尿病災害対策事業 震災と1型糖尿病患者 ～そのときどう行動したか～

申込必要

開催日：平成28年8月28日（日）14:30～16:30（開場：14:00）

場所：武蔵野公会堂（JR「吉祥寺駅」徒歩3分）

申込：FAX: 042-322-7478（8/21（日）締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL: 042-322-7468

参加費
無料詳細資料兼
申込用紙の
同封あり
☒ 臨床糖尿病支援ネットワーク CSII普及啓発プロジェクト委員会主催 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第9回研修会

申込必要

開催日：平成28年9月6日（火）19:25～21:05

場所：国分寺労政会館 第4会議室（JR・西武線「国分寺駅」南口徒歩5分）

申込：本法人ホームページ [https://www.nishitokyo-dm.net/] の申込フォームより（8/30（火）締切）

トップページ > イベント情報 > 本研修会名 > ページ下部「このセミナーに申し込む」> 申込フォーム

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL: 042-322-7468

参加費
無料詳細資料の
同封あり

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☒ 第21回 TAMA生活習慣病フォーラム

申込必要

開催日：平成28年9月10日（土）17:00～19:30

場所：調布市文化会館たづくり 12階 大会議場（京王線「調布駅」徒歩3分）

申込：FAX: 042-362-1602（9/2（金）締切） 参加費：500円

問合せ：ノボ ノルディスク ファーマ(株)（担当：小澤） TEL: 042-362-1601

詳細資料兼
申込用紙の
同封あり

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

☐ T1DM MEET UP 2016 in TOKYO ～1型糖尿病を学ぶ会～

申込不要

開催日：平成28年9月11日（日）10:30～16:30

場所：北里大学薬学部1号館・コンベンションホール他（東京都港区白金5-9-1）

参加費：2,000円（小学生以下無料）

参加予約：Eメールで名前と連絡先を送信 [送信先: reserve@sunnana.jp] ※当日参加可能

問合せ：T1DM MEET UP 2016 実行委員会事務局（クリニックみらい国立内） TEL: 042-505-7560

詳細資料の
同封あり
☒ 臨床糖尿病支援ネットワーク主催 かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会 第7回例会

申込必要

開催日：平成28年9月16日（金）19:30～21:00

場所：国分寺労政会館 第2会議室（JR・西武線「国分寺駅」南口徒歩5分）

申込：FAX: 042-322-7478（9/8（木）締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL: 042-322-7468

参加費
無料詳細資料兼
申込用紙の
同封あり
☐ 第17回 糖尿病予防講演会

申込不要

テーマ：『糖尿病と共に健康に生きる ～Healthy Living and Diabetes～』

開催日：平成28年9月24日（土）14:00～17:25

場所：ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥（京王線「府中駅」徒歩6分）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL: 042-322-7468

参加費
無料詳細資料の
同封あり

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
http://www.nishitokyo-dm.net/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



暑い夏が来ました。この時期は「脱水」の話題が多くなりますが、最近気になる水分に、「味付きの水」があります。無色透明で、見た目は水と変わらず、ヨーグルト味、ミカン味、アロエ味等々、様々な種類が販売されています。これらを「水」と思っ
て、あるいは身体に良いと思って飲まれている患者さんが多くいます。しかし、しっかりと「糖分」が含まれていますので（500ml当たり20～30g）、スポーツドリンク同様、注意が必要ですね。（広報委員 永田 美和）